

漢字の基礎知識三二講義—漢字の成り立ちと意味の変化

※動画講義では、次ページの内容を取り扱っています。

1. 講義をよりよく理解するために（前提知識）

一つの漢字に複数の字義

漢和辞典を引いてみると、多くの漢字で複数の字義（＝漢字の意味）が挙げられている。一つの字義しかないものは、草木・鳥獸・虫魚・山川などの個別特殊な名称を表す漢字がほとんどである。逆に言えば、使用頻度の高い一般的な字ほど、一字に多くの字義をもっているのである。

では、漢字はどのようにして複数の字義をもつに至ったのだろうか。

字義が増えるしくみ

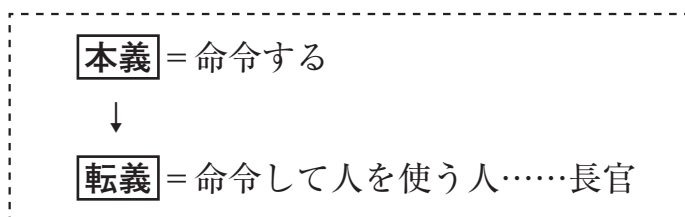
漢字の字義には、大きく分けて本義と転義がある。

本義とは、初義・原義ともいい、その漢字が本来もっていた原初的な字義のことをいう。一方、転義とは、のちに本義から転化して増えた字義のことをいう。

字義の転化の原理、すなわち字義が増えるしくみとしては、^{いんしん}引伸と^{かしや}仮借がある。

引伸とは、本義から引き伸ばされて別の意味を生じることで、そのようにして生じた字義を、引伸義という。

たとえば「令」という漢字には、〈命令する〉という本義のほかに、〈県のおさ、長官〉という転義がある。これは、



というように、本義から引き伸ばされて別の意味が生じている例である。このような字義の変化を、引伸という。

これに対し、仮借とは、音が同じ（または似ている）漢字を借りて別の意味を生じることで、そのようにして生じた字義を、仮借義という。これは、いわば当て字的な用法である。

2. 動画講義の内容

動画講義では、引伸の原理で別の字義が生まれた漢字をいくつか取り上げ、具体的に紹介している。

服

【本義】舟の（びたりと付ける）横板

【転義】身につける・従う

「服」は、月（ふなづき）と艮（人に手をびたりとつける意）の会意字である。なお、服は艮「フク」という音を示す部分（音符）でもある。

「服」の本義は〈舟べりにびたりと付ける横板〉だが、〈びたりと付ける〉という意味的な関連から、〈身につける〉〈従う〉などの意味が生まれることになった。

「服装」「服飾」、あるいは「服従」「服役」などの熟語は、「服」のこのような引伸義によって構成されている。

解

【本義】牛を解体する（バラす）

【転義】ときほぐす・ときあかす

「解」は、刀と角・牛から成る会意字で、〈牛の角や体を解体する（バラす）〉が本義である。

〈バラバラにする〉という意味上の関連から、〈ときほぐす、ときあかす〉といった意味が生まれた。「解釈」「解明」「解説」などの熟語は、「解」のこのような引伸義によって構成されている。

攷

【本義】うつ・たたく

【転義】（功績などを）よくかんがえる

「攷」は、〈手に棒をもってうつ〉形の^{ほくづくり}攷を構成要素とするように、〈うつ〉が本義である。そこから、〈かんがえる（＝功績などをよく調べる）〉の意味が派生した。